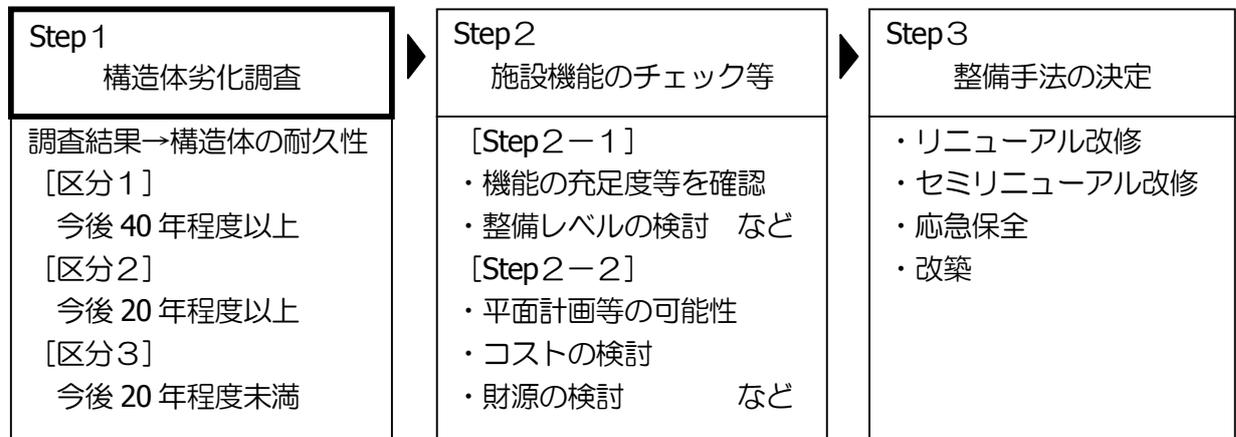


平成21年度構造体劣化調査について（概要）

1. 目的

施設の長寿命化に向けて、この先どのくらいの期間、建物を使用することができるか、構造体の劣化の程度からその耐久性を調査しました。

2. 長寿命化に向けての検討の流れ



3. 調査対象施設

概ね築 40 年以上のものから歴史的建造物や建替え事業に着手したものなどを除き、93 施設、315 棟を調査しました。（H21 年度は 308 棟、H19、20 年度に試験的に調査したもの 7 棟）

一部、継続調査となったものを除き、263 棟について構造体の耐久性を評価しました。

4. 調査結果

構造体の劣化の程度から、以下の調査結果となりました。

	(内、住宅)	(内、学校)
・今後 40 年程度以上の使用が期待できるもの……………	84 棟 (32 棟)	(33 棟)
・今後 20 年程度以上の使用が期待できるもの……………	179 棟 (91 棟)	(68 棟)
・試験体の一部にコンクリート強度の不足がみられたので 精度を上げるため調査を継続するもの……………	52 棟 (23 棟)	(18 棟)
合計	315 棟 (146 棟)	(119 棟)

5. 考察

調査結果のでた 263 棟のうち、期待できる構造体の耐用年数（建設されてからの年数）として、

60 年以上が 206 棟

うち、70 年以上が 90 棟

うち、80 年以上が 46 棟

という結果になりました。

従来、一般的な市設建築物では狭隘化や機能不足などを理由に概ね 30 年から 40 年で建て替えられてきましたが、今回の調査結果により構造体の面からは、一般的にいわれている耐用年数 60～65 年程度よりも長寿命化が期待できることがわかりました。

今後、建物の機能の充足度、長寿命化等にかかるコストなどを検討し、施設整備を適切に進めてまいります。